

## 観点別評価の見直し

# 私の提案

筑波大学附属中学校・教諭 肥沼 則明

## 1 はじめに

新学習指導要領の完全実施3年目を迎え、改訂の主旨が各学校、各教師に浸透してきた。移行期に見られた不安や焦りは影を潜め、新しい体制の中でいかに独自性のある教育を行っていくかということに興味に移りつつある。

しかし、一見定着したかに見られる今こそ、改訂の主旨が真に活かされているかを検証し、必要があれば軌道修正する必要があるのではないだろうか。特に評価という観点からは、指導と評価の一体化や評価の多角化が確実に行われているかを確認することが大切である。

## 2 観点別評価のあり方

観点別評価が採用されたのは、定期テスト等に偏りがちな評価を指導の中で行われる評価に重点を移すことと、より多角的に個々の生徒を理解するという主旨からである。また、自ら学ぶ意欲・変化に主体的に対応できる能力、個のよさと可能性を重視しようという評価観の転換も求められた。したがって、我々教師は日々の授業では常にこれらを意識して指導し、生徒に対しても直接的・間接的にこれらを理解させなければならない。

さて、実際の評価においては、指導のねらいに合った評価を行うのは言うまでもない。例えばコミュニケーション活動を行う際には、何のためにその活動を行うのかを明らかにした上で、評価項目を決めることになる。そして、最終的に通知表等で生徒にフィードバックする際には、妥当性・信頼性のある評価とする。もちろん、そこに教育的配慮が入ることも少なくない



であろうが、少なくとも評価の理由を問われた時に窮しないよう客観的データを蓄積しておきたい。

## 3 観点別評価の実態

### (1) 評価する側の問題

附属中という立場上、多くの先生方の実践を見せていただいたり、評価に関する率直なお声を聞くことがある。概して言えることは、ほとんどの先生方が試行錯誤の上に何とか実態に合った適切な評価法を確立しているということである。しかし、次のような実態があることも確かで、改めて評価のあり方を真剣に考える必要がある。

- ① 毎時間授業中に事細かに全員の記録をつけている……チェックマンと化し、指導がおろそかである。意欲は買うが本末転倒。

② 学期末の段階でその時の印象点で観点別評価をつけている……客観性をできるだけ高めなければならない評価として失格。

③ 観点別評価を点数化して評定をつけている……多角的に生徒を評価しようという改訂のねらいから逸れ、以前に逆戻り。

## (2) 評価される側の認識の問題

評価に対する教師側の理解に対して、評価される側は本音では理解していないという実態がある。特に進路問題が関わると、結局は評定や観点別評価のAの合計数を問題にして内容面には目がいかない。これまでの常識を覆すようなものであるから仕方がないが、我々教師側も努力不足である。ことあるごとに理解を求めていく必要がある。

## 4 観点別評価見直しの視点

### (1) 指導・評価計画の見直し

相当な時間と労力を傾けて作成した指導・評価計画であっても、実際に指導してみると実態にそぐわないということは多い。そこで、改めて計画をし直さなければならない。

#### ① 指導のための評価に

生徒の発達を手助けできるような評価を工夫し、適宜フィードバックを。

#### ② 指導と評価のねらいを明確に

欲張りすぎず、焦点がぼけないよう重点を決めて評価できるように。

#### ③ 評価の基準を明確に

誰が評価しても評価の揺れが最小限になるような具体的な基準を。

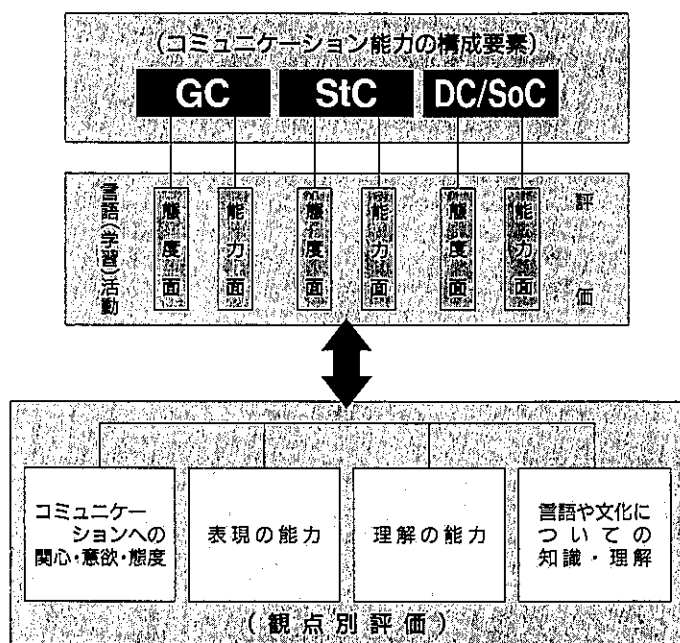
#### ④ 評価方法を簡単に

簡単で細かすぎず、できる範囲で実施を。

## (2) 評価場面の見直し

### ① コミュニケーション活動の評価

授業中に行われているコミュニケーション活動を、態度面はともかく、コミュニケーション能力の育成という面から見ると、活動の成果を観点別評価にどう活かすか悩むことが多い。そこで、個々の活動の評価と観点別評価との関係を明らかにし、一方が満足であればもう一方も上達したことになるというような関連性を持たせたい。次の図は、コミュニケーション能力が4つのCompetence (Grammatical, Socio-linguistic, Discourse, Strategic)で構成されるという説 (Canale&Swain: 1980)をとった場合の、観点別評価との関連を示した構想図である。



※前任校(埼玉大学付属中)の研究より

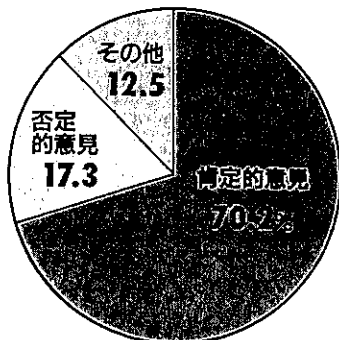
## ▼全国中学校「英語科先生」3,288名のアンケートより…

高校入試で英検資格をプラス評価することに対する具体的存ご意見

「賛否両論あるが、約7割(70.2%)が肯定的

### 肯定的意見 4,220件

- 1位 積極的に評価してほしい……648件
- 2位 生徒の意欲・努力の証なので評価してほしい……168件
- 3位 生徒の励みになるのでよい……131件
- 4位 英語科・英語コースならばよい……120件
- 5位 公平・客観的な試験なのでよい……111件
- 6位 評価する機会が増えるのでよい……42件



### 否定的意見 301件

- 1位 受験は自由なので不平等が生じる……61件
- 2位 本人や学校に負担となるので問題である……42件
- 3位 民間のテストなのでよくない……24件
- 4位 英検が受験のための手段になってしまうのでよくない……21件
- 5位 その他……153件

### その他 218件

- 1位 ある程度は評価するべきだが、重視しすぎるのも問題である……40件
- 2位 高校が判断すればよいことである……29件
- 3位 その他……149件

② 定期テストの観点別化

観点別評価の登場により悪者扱いされている定期テストであるが、次のように構成すれば観点別評価の重要な資料になる。

- 実際に指導した内容にしぼる
- 問題を観点別に整理して出題する  
(指導要領の4つの「観点別」ではない)
- 返却時に観点別の達成度を知らせる
- 結果を生徒に自己分析させる

本校では上記のように定期テストを行っており、生徒は自分の課題点を意識できるようになっている。また、すべての観点別の得点をパソコンにインプットしており、統計処理をして指導の弱点をさがせるようにしてある。

■第3学年前期英語科考査達成率グラフ

1. 「自己得点」と「達成率」を観点別に記録しよう。

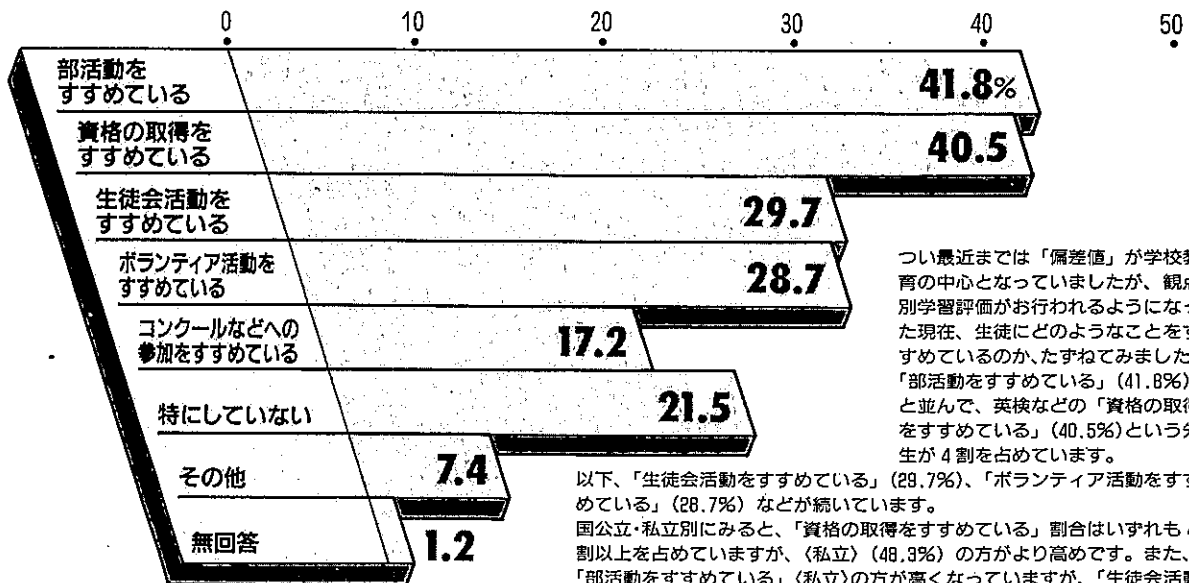


設 問	I A~C	I D	II	III 1~2	III 3~4	III 5	
観 点	聞く	聞く話す	表現理解	内容理解	文法理解	基礎英語	合 計
満 点	14	6	22	10	18	5	75
平均点	12.6	5.0	17.1	7.9	10.4	2.8	55.8
自己得点							
達成率%							

※「達成率」=「自己得点」÷「満点」(少数第1位まで)

▼全国中学校「英語科先生」3,268名のアンケートより…

偏差値教育に代わるものとして、他にどのような指導を行っているか(複数回答)  
「部活動、資格取得が指導の重点」

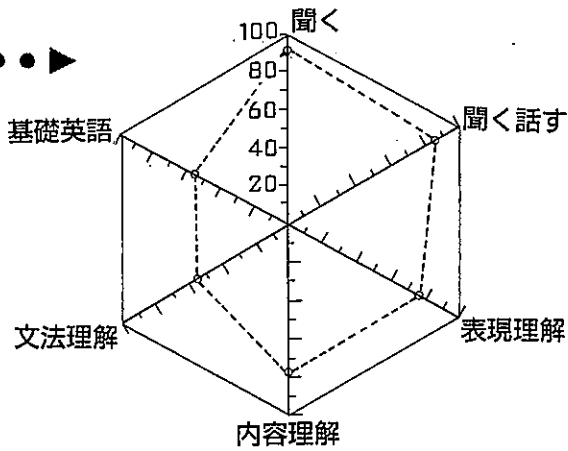


つい最近までは「偏差値」が学校教育の中心となっていました。観点別学習評価がお行われるようになった現在、生徒にどのようなことをすすめているのか、たずねてみました。「部活動をすすめている」(41.8%)と並んで、英検などの「資格の取得をすすめている」(40.5%)という先生が4割を占めています。

以下、「生徒会活動をすすめている」(29.7%)、「ボランティア活動をすすめている」(28.7%)などが続いています。国公立・私立別に見ると、「資格の取得をすすめている」割合はいずれも4割以上を占めていますが、〈私立〉(48.3%)の方がより高めです。また、「部活動をすすめている」(私立)の方が高くなっていますが、「生徒会活動をすすめている」は反対に〈国公立〉(30.4%)の方が〈私立〉(16.8%)に比べ、約2倍となっています。



2. 左表の達成率を、下のレーダー・チャートに記録しよう。



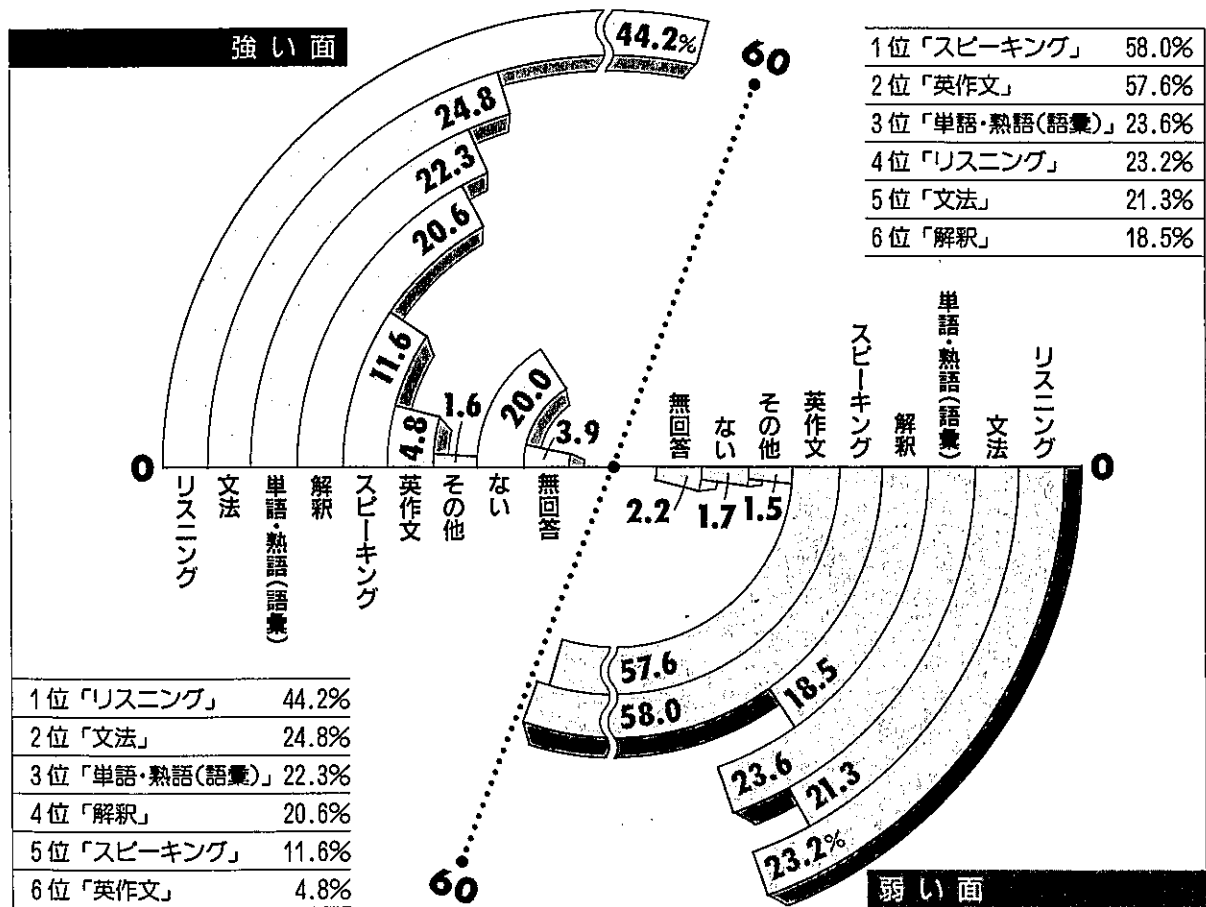
## 5 終わりに

今回は「観点別評価」の見直しに論をしばり、紙面の都合で具体的な評価方法は省略した。

評価の詳細は、北尾倫彦・長瀬壮一編「観点別学習状況の評価基準表」(図書文化)を参照されることをお勧めする。

### ▼全国中学校「英語科先生」3,268名のアンケートより▼

現在の中学生の英語力で強い面、弱い面は(各複数回答)  
「リスニングは強いが、スピーキングと英作文は弱い」



現在の中学生の英語力について強い面、弱い面をあげてもらいました。まず【強い面】については、「リスニング」(44.2%)を全体の4割以上の先生があげて最も多く、次いで「文法」(24.8%)、「単語・熟語(語彙)」(22.3%)、「解釈」(20.6%)が2割台で続いています。また、強い面は「ない」とする先生も少なくありません(20.0%)。

【弱い面】については、「スピーキング」(58.0%)の2項目を全体の6割近くの先生があげています。以下、「単語・熟語(語彙)」(23.6%)、

「リスニング」(23.2%)、「文法」(21.3%)、「解釈」(18.5%)の4項目が2割前後となっています。

双方を比較してみると、「リスニング」は【弱い面】よりも【強い面】としてあげられている率の方が高くなっていますが、「スピーキング」と「英作文」については【強い面】としてあげる先生は極めて少なく、主に【弱い面】として認識されているようです。

「文法」「単語・熟語(語彙)」「解釈」については、【強い面】【弱い面】がほぼ同数となっています。